

平成 23 年度 卒業論文

# 宗教と政府への信頼の関係性

山形大学

地域教育文化学部 生活総合学科

生活情報システムコース

08210282 戸村優子

指導教員 濱中信吾

## 目次

第一節 序論.....	3
1.1 はじめに.....	3
1.2 ヨーロッパにおける移民.....	3
1.2.1 移民と政府信頼の関係について.....	3
1.2.2 ヨーロッパにおけるイスラーム教徒について.....	4
1.2.3 政教分離とイスラーム教について.....	5
1.2.4 フランスのライシテについて.....	6
1.2.5 ヨーロッパにおける政教分離のあり方.....	7
1.3 政府への信頼の計量分析について.....	7
第二節 仮説.....	8
第三節 分析.....	8
3.1 用いたデータ、対象となる国.....	8
3.2 分析手法.....	10
3.2.1 順位和検定.....	10
3.2.2 ロジスティック回帰分析.....	11
3.3 分析結果.....	11
3.3.1 順位和検定.....	11
3.3.2 ロジスティック回帰分析.....	12
第四節 結論.....	14
4.1 考察.....	14
4.2 今後の課題.....	15
謝辞.....	15
付録.....	17

## 第一節 序論

### 1.1 はじめに

ヨーロッパ諸国の政治を論じる際、しばしば移民問題が論点としてあげられる。移民による労働市場の侵食は一国経済に対する脅威として受け取られ、国民のナショナル・アイデンティティに影響を与えることがある。移民による脅威によって、外国人嫌いになっている国民に、外国人排除の政策を打ち出し、支持を得た極右勢力が台頭する。田辺(2008)の定義によれば、ナショナル・アイデンティティとは、「自分は〇〇人である」という国民としての自己意識のことである。本論文ではこのナショナル・アイデンティティに対する脅威に焦点をあてる。

ナショナル・アイデンティティに対する脅威は、移民と先住民の宗教の違いが関係してくると考えられる。ヨーロッパ諸国への移民は大半がイスラーム教徒であり(内藤 2004:10)、イスラーム世界に恐怖と嫌悪を感じている先住民と衝突してしまうのである。このような衝突によって、イスラーム教を信仰している移民は、ヨーロッパ諸国では信仰の自由が認められず、政教分離などの政策を打ち出している政府に対して不満をもち、政府への信頼が低くなるのではないかと考えた。

「ヨーロッパにおけるイスラームの拡大」およびその反作用としての極右勢力の台頭という現象は国民国家の基盤を揺るがし、社会秩序を脅かすものとして研究者だけでなく政策当局者の関心も集めている。この関心は9. 11テロ事件以降、急速に拡大して関連する多くの研究を生み出した。本論文も当該研究分野の一潮流を成しているのであり、宗教の違いと政府への信頼の関係性について計量分析を行い、明らかにしていくことを目的としている。

まず、第一節では先行研究をもとに、ヨーロッパにおけるイスラームの現状を明らかにしていく。また、政府への信頼についての先行研究について明らかにしていく。第二節で仮説をたて、第三節ではフランス、ドイツ、イギリスというヨーロッパの中の三カ国をとりあげ、宗教の違いと政府への信頼の関係性について、実際に分析を行い検証し、最後に考察を述べる。

### 1.2 ヨーロッパにおける移民

#### 1.2.1 移民と政府信頼の関係について<sup>1</sup>

ヨーロッパ諸国で移民が敵視される理由としては、失業・社会的コスト(医療・社会保障・失業手当)で重荷になる、急速に増加する移民の数に起因する過剰感や不安感、移民自体の性格・構成の変化などがあげられる。移民が敵視されるようになってきたのは、1973年のオイルショックによって、世界的に経済困難に陥ったころからであった。この移民問題によって、勢力を拡大してきたのが極右政党である。

---

<sup>1</sup> 本節は畑山(1997)21-145ページを中心に要約した。

フランスでは、1980年代にオイルショックによる経済的困難に対して、政治の問題解決能力が試された。1981年に左翼政権が登場して、失業との戦い・社会的不平等の縮小・経済回復・社会構造改革などをはかったが、結果として、インフレの増進、フラン価値の低落、貿易赤字の増加、国家財政の悪化というように、国民の期待を裏切ることになった。1986年には保守政府が新自由主義的政策を打ち出すが、フランスの経済復興を実現することができなかった。これらのことから国民の左右政党への不信感が高まり、フランスにおける政治の危機へと発展した。

ここで極右政党は左右の既成政党を批判し、民衆の感情と利益を唯一代表する政党として台頭したのである。既成政党が鮮明な立場を打ち出せない中で、極右政党はフランスが直面している危機的状況を移民の存在によって説明した。そして、反移民的言動や政策を打ち出した。既成政党から人種主義として批判を浴びても、「既成政党は反フランス的人種主義である、反国民的である、外国人の党である」といったように反撃を行い、反移民という自らの立場を正当化した。極右政党は、フランス社会の中に広がっていた外国人嫌いの感情に有効的に作用したのである。また、極右政党は犯罪の増加と移民の存在を結びつけたキャンペーンをマスメディアと通して展開し、「犯罪者＝移民」の意識を国民の間に植え付けたのである。

このような極右勢力の台頭はフランスだけでなく、ヨーロッパ諸国における共通の現象となっていく。ドイツでは基本法で避難民の受け入れを規定しているが、大量の難民の流入に直面して、既成政党の間で基本法の規定の改正論議がなされている。しかし適切な方針を打ち出せずにいた。すると、国民の間に政府の対応に対する不満と外国人に対する敵意が芽生えてきた。このような中で、「外国人の強制送還」を活動方針としている極右政党は、「ドイツをドイツ人のために」などのスローガンを掲げ選挙戦を繰り広げ、多くの有権者の指示を得た(内村 1998:18)。

イギリスの極右勢力はいくつかのグループがイニシアティブをめぐって争っていた。そのためどのグループも主導権を握る状況にはなかったため、イギリスへの移民が増加する中、人々の間で高まりつつあった移民への不安感を利用して極右勢力が台頭することはなかった。しかし、やがて極右勢力の大同団結が求められるようになり、国民戦線の結成へとつながったのである(力久 2009:62-63)。

## 1.2.2 ヨーロッパにおけるイスラーム教徒について

では、なぜ「犯罪者＝移民」といったような意識を国民に簡単に植え付けることができたのだろうか。その背景には、オイルショックによって経済的困難に陥り、移民によって経済的に生活が脅かされるといった恐怖が生まれたということはもちろん考えられる。しかし他にも、民族的価値観の違いによって、ナショナル・アイデンティティが脅かされるといった恐怖が生まれたということも考えられる。

ヨーロッパ諸国に移民したアルジェリア、チュニジア、モロッコ、セネガル、マリ、バングラディッシュ、パキスタン、インド、タンザニア、スーダン、エジプト、トルコ、モ

ロッコといった国々の出身者の多くはイスラーム教を信仰しているムスリムであった(内藤 2004:10)。はじめは、外国人の滞在というのはあくまでも一時的なものであって、単身の男性労働者がほとんどであった。しかし、その後、出身地からの家族の呼び寄せが起り始めた。そして、第二世代が誕生し、移民は単身の男性労働者から妻子をもった家族へと変貌していったのである。やがて外国人の数が増し、特定の地区に移民が集中するようになると、モスクが建てられたり、ハラール・ミート<sup>2</sup>を扱う食品店が増え始めたりした。また、女性のヴェールや男性の顎鬚が目立つようになってきた。移民が増えたことによって、イスラームの可視化が加速してきたのである。イスラームの可視化によってヨーロッパ諸国の国民は、自らの社会が膨大なムスリムをかかえていることに気づいた(梶田 1993:8-11)。長年イスラーム世界に対して、恐怖と嫌悪を抱いていたヨーロッパの社会(内藤 2004:6)は、移民による膨大なムスリムの増加に、ナショナル・アイデンティティが脅かされるという恐怖を抱き、外国人排除という考えにいたったと考えられる。

### 1.2.3 政教分離とイスラーム教について

イスラーム世界に恐怖、嫌悪感を抱く理由のひとつに、イスラーム教の信仰スタイルとヨーロッパ社会における政教分離があげられる。政教分離とは国家と宗教を分離させることをいう。中世ヨーロッパでは、国家と教会、国権と教権が密接に結合していた。そのため、国教以外の宗教の信仰の自由が認められていなかった。しかし、17.18 世紀ごろから、国家の宗教的中立の制度がしだいにヨーロッパ社会に広まり、政教分離は信仰の自由の保障のために広く用いられるようになった。

では、なぜ信仰の自由の保障のために設けられた政教分離という制度が、イスラーム教の信仰を妨げることになるのだろうか。それは、イスラーム教の信仰スタイルが問題になってくる。イスラーム教というのは、宗教的理念のみならず、日常の慣習や政治に深くかかわっている宗教である。イスラーム教を信仰している人々は、公的、私的を問わず生活のすべてをイスラームに依拠しつつ生きていこうとする(内藤 1996:130-142)。そのため、宗教を私的な領域にとどめようとする政教分離の考えとは矛盾してしまい、衝突がおこるのである。衝突がおこる例としては、スカーフ問題、葬儀と遺体の埋葬、動物の虐殺方法、宗教教育問題などがあげられる(梶田 1993:24-30)。ここで、ヨーロッパにおけるイスラームについて論じられるときに多く論じられる、スカーフ問題の事例をとりあげてみたい。

1992 年にフランスのある中学の女生徒がスカーフを着用して授業に出席したため、退学処分となった。その女生徒は裁判所に退学処分取り消しをもとめたが、処分生徒の態度が教育活動に支障を及ぼし、学校の秩序を乱し、布教活動禁止の原則に違反しているとして生徒側の訴えが棄却された。この事例は公立の中学校という場がなにより問題となっている。公教育の空間は宗教に対して中立的でなければならないという、「非宗教性の原則」に触れたとうけとめられたのである(三浦 2001:32-36)。

---

<sup>2</sup> イスラームの律法に基づいて処理された肉を意味する

## 1.2.4 フランスのライシテについて

ヨーロッパ諸国のなかでも、政教分離のありかたはさまざまである。フランスは国教を廃止し、宗教団体に政治上の権力を公使させないだけでなく、公的な場所から宗教を排除するといったような厳格な政教分離が行われている。

フランスでは1516年に締結された政教条約によって国教制度がとられた。その制度の下で、フランスはカトリックの国家であるとされ、国王も臣民もカトリック教徒でなければならなかったのである。カトリック教会は国家において卓越した地位を有していた。しかし一方で、高位聖職者の実質的な指名権を国王がもち、教皇は国王の氏名に従い教会法上の任命を行う権限だけを有した。このように高位聖職者の任命が実質的に国王の手にあったといったガリニスムの特徴をみる事が出来る(井上 2010:6)。ガリニスムとは教皇に対する国家の独立をめざし、またフランスの教会の世上権を政治権力に服せしめようとする、教会原則、教説、世俗権力の実施を意味する(小泉 1998:4)。

国家とカトリック協会との関係に大きな変化をもたらしたのが1789年のフランス革命である。フランス革命期の人権宣言10条では「何びとも、その意見の表明が法律により定められた公序を乱さないかぎり、たとえ宗教上のものであっても、その意見について不安をあたえられてはならない。」と宣言し、カトリック以外の宗教、宗派を含む信仰の自由を承認することになった。これがライシテの起源であると考えられる(井上 2010:6-8)。

実際に政教分離法が成立したのは1905年の「諸教会と国家の分離に関する法律」が制定されたときである。ここでは公認宗教制度を否定し、宗教に対する公金の支出を原則として禁止している。しかし共和派が一方的に制定した政教分離をカトリック教会は受け入れなかった。フランスの最大の宗教団体であるカトリック教会の抵抗に対して無視する事ができない政府は、政教分離法を完全実施するために、譲歩と妥協の法律を制定したのである。このことによってカトリック教会は多くの財産を失ったが、教会は多くの活動の自由を得る事ができたのである。このライシテの原則は第二次世界大戦後に憲法化され、現在に至るまで存続している。

今日のフランスの学説におけるライシテの法的概念は国家の宗教的中立性と理解されている。しかし、中立性は現行憲法では明確ではない。ライシテが中立性のすべてを包摂するものではないということである。すなわち、ライシテは公役務から宗教は除くことのみを要求するのに対し、中立性は公務役に宗教的に偏りが無いことを求めるものなのである。実際に、キリスト教徒の十字架のペンダントの着用やユダヤ教徒の男子生徒のかぶる特有の帽子などは問題にせず、とくにイスラームのスカーフのみが問題にされている。との背景には、スカーフ着用を認めると公的空間におけるイスラーム的表象の容認につながることなどへの警戒がみられると考えられる(小泉 1998:81-99)。

## 1.2.5 ヨーロッパにおける政教分離のあり方

国家と宗教の関係については、様々な類型化が試みられている。1945年にベーツ(M, Searle Bates)は世界75カ国の宗教と憲法上の規定を調査し、国家と宗教に関して5つの分類を試みている<sup>3</sup>。

- ① 各宗教に対して実質的に自由と平等を保障している国家
- ② 特定の宗教に優先権を与えつつ、ほかの宗教にたいしても自由を保障している国家
- ③ 国教制度を採用しているが、ほかの宗教に対しても原則として自由を保障している国家
- ④ 国教制度を採用し、かつ他の宗教にたいして制限を設けている国家
- ⑤ いかなる宗教にたいしても、これを抑制している国家

全世界の半数は①に属しており、フランス、ドイツは①に属する国家であると考えられる。次に多いのが③であり、イギリスはこれに属していると考えられる。

1977年にジャック・ローベル(Jacques Robert)は、憲法学の立場から政教分離に関する3つの分類を試みている<sup>4</sup>。

- ① 融合型＝国教型といわれる類型
- ② 同盟型といわれる類型
- ③ 分離型と言われる類型

①は、国家と宗教とが区別されず、国家そのものを一つの宗教的現象とみなすものである。宗教的権威と政治的権威とが完全に融合し一致する神政政治がその典型であり、イスラーム諸国の実態がこれに近いと考えられる。さらにこの類型は国教型や国家教会主義ともいわれるものであり、イギリスはこれに属すると考えられる。

②は、教会と国家とが独立した社会であることを前提として、教会の組織・運営において、両者間に何らかの法的関係が存在する場合を示すものである。

③は、国家は信仰の自由を保障するが、教会の運営に関与することを拒否する形態であり、フランスはこれに属すると考えられる。

以上のことからわかるように、政教分離に関して、フランス、ドイツは国教をもたず、すべての宗教に対して自由と平等を保障している国家であり、イギリスは国教を持ちながらも、他の宗教に対しても自由と平等を保障している国家であると考えられる。

## 1.3 政府への信頼の計量分析について

行政に対する信頼を制度信頼の一つとして整理、分析、実証していくために、まず信頼がつくられる要因を考えなければならない。狭義信頼の育成要因、安心要因、信頼を増大させるアウトプット要因(能力、業績評価)、社会関係資本的な規定要因などが考えられる。そして、これらの規定要因を検討するために、先行研究では調査データを用いて順序ロジスティック分析が行われている(池上 2010:11-30)。

<sup>3</sup> ここでは井上(2010)2 ページによる整理を引用した。

<sup>4</sup> ここでは井上(2010)3 ページによる整理を引用した。

## 第二節 仮説

先行研究からは、ヨーロッパにおけるイスラームのあり方の現状、ヨーロッパにおける政教分離の現状を明らかにした。

ヨーロッパでは中世期に、国家と宗教を分離させ、信仰の自由を認めるために政教分離という原則を打ち出した。しかし、信仰の自由を認めるのは、私的空間の中でのことであって、公的空間に宗教への信仰を持ち込むことは認められていない。したがって、信仰の自由を認めるためにと打ち出された政教分離だが、民間の慣習や政治に深くかかわっていて、イスラーム習慣の維持が必然的に公的空間に溢れ出してしまうイスラーム教徒にとっては、信仰の自由を認められたとはいえない難かった。

ヨーロッパ諸国の先住民のナショナル・アイデンティティが、移民によって脅かされているといわれている。しかし、逆の立場から考えてみると、イスラーム教徒である移民にとって文化的アイデンティティの脅威として映るのは、ヨーロッパ諸国の世俗主義なのである(福永・新保・持田 2004:58-68)。

ここで、このように世俗化によって文化的アイデンティティが脅かされているイスラーム教徒にとって、政教分離など、宗教についての規則を打ち出している政府というのはどのようにうつっているのだろうか。また、ヨーロッパにおける政教分離のあり方はさまざまであるが、政教分離が徹底されているか徹底されていないかで、宗教の違いと政府への信頼の関係性は変わってくるのか。このことを明らかにするために、宗教の違いと政府への信頼の関係性について計量分析を行う。

分析を行うにあたって、「政教分離が徹底している国は、政教分離が徹底していない国に比べて、イスラーム教徒による政府への信頼が低い」という仮説をたてる。

次節では、この仮説を分析、検証していく。

## 第三節 分析

### 3.1 用いたデータ、対象となる国

分析には世界価値観調査 2005 年のデータを用いる。このデータは 56 カ国で 2005 年から 2008 年の間に行われた調査に基づいている。また、分析の対象とする国は、移民問題と関係が深い西欧諸国の中でも、宗教という視点から分析を行うに値するデータ数があると考えられるフランス、ドイツ、イギリスの 3 カ国である。この 3 カ国では 2006 年に調査が行われている。



図 3.1 フランスにおける宗教分布

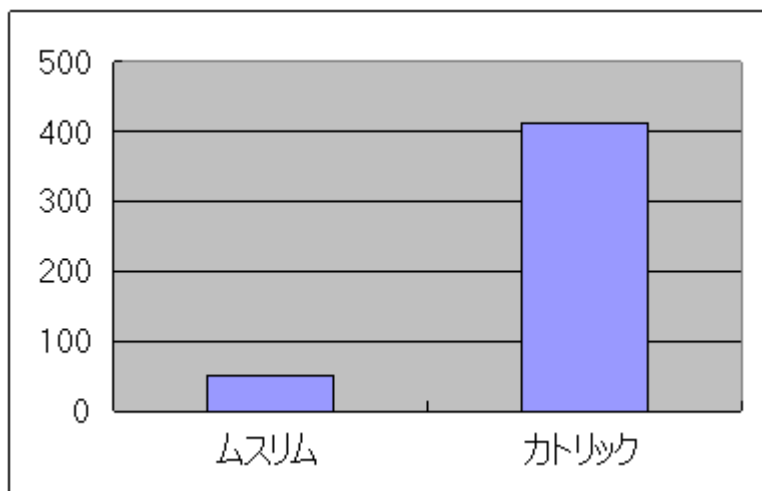


図 3.2 ドイツにおける宗教分布

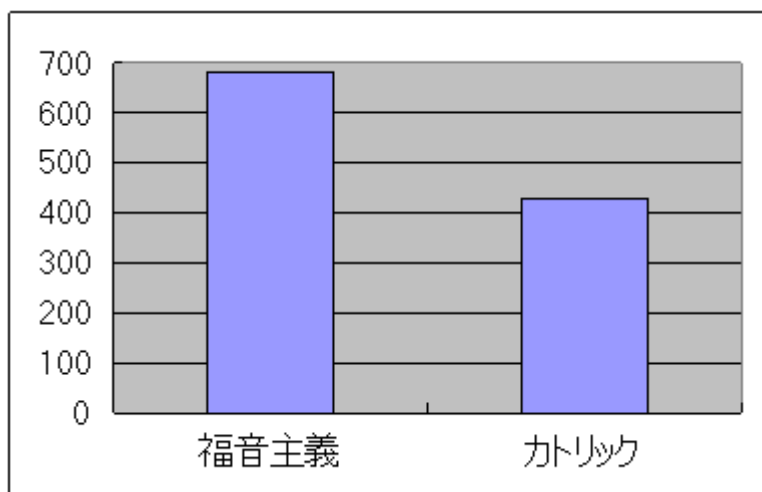
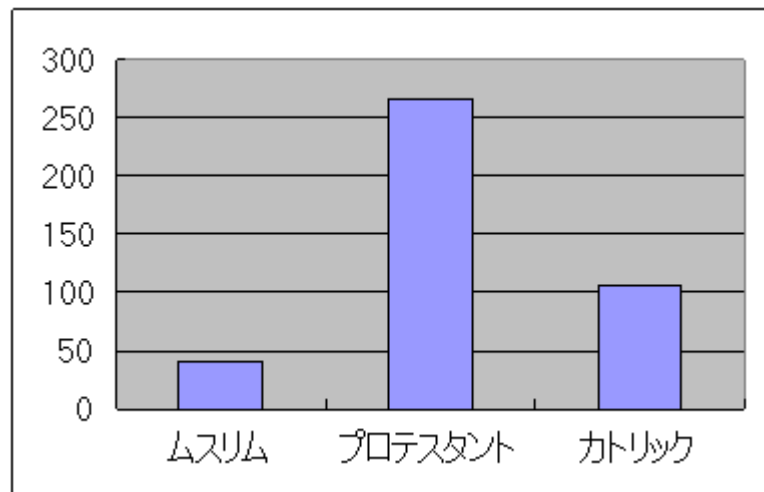


図 3.3 イギリスにおける宗教分布



### 3.2 分析手法

移民と先住民との意識の違いを宗教という変数を軸として分析してみよう<sup>5</sup>。まず、宗教の違いによって政府への信頼に差があるのかを検討するために、ウィルコクソンの順位和検定を行う。次に、順位和検定において統計的な有意差が認められれば、他に政府への信頼を規定すると考えられる統制変数を含めても宗教の違いによる意識の違いがあるのかどうかを検討する。この目的のためにロジスティック回帰分析を行う。

#### 3.2.1 順位和検定

それぞれの国で大きな割合を占めている宗教をグループ化変数とする。

##### フランス

決定変数：政府に対する信頼（V138）

グループ化変数：宗教（V185 イスラーム 49、カトリック 64）

##### ドイツ

決定変数：政府に対する信頼（V138）

グループ化変数：宗教（V185 福音主義 25、カトリック 64）

##### イギリス

決定変数：政府に対する信頼（V138）

グループ化変数：宗教（V185 イスラーム 49、プロテスタント 62、カトリック 64）

<sup>5</sup> ただしドイツに関しては人口に占めるムスリムの割合が極端に小さいため、福音主義とカトリックという先住民間の差異を分析することとした。

### 3.2.2 ロジスティック回帰分析

先行研究では政府への信頼に影響すると考えられる要因は、狭義の信頼の育成要因・安心要因・能力要因・信頼を増大させるアウトプット要因・社会関係資本的な規定要因・周縁的関連要因があげられる。これらの要因から 28 個の変数が研究の対象となっている。本論文では 28 個の変数の中から、ロジスティック回帰分析の変数減少法を用いて、それぞれの国にあった変数を選びなおし、説明変数とする。

また宗教の変数はイスラーム教 (1) とそれ以外の宗教 (0) というようにそれぞれの宗教でダミー変数を作成する。

#### フランス

目的変数：政府に対する信頼 (V138)

説明変数：民主的な政権が政治制度として好ましい(V151)、人はだいたい信用できる (V23)、政党に加わっている (V28)、家計状態への満足度 (V68)、政治への関心度 (V95)、政治的行動：請願書・請願書への署名 (V96)、政治的行動：不買行動 (V97)、政治的立場 (V114)、愛国心 (V209)、居住地規模 (V255)、宗教イスラーム (V185)、宗教カトリック (V185)

#### ドイツ

目的変数：政府に対する信頼 (V138)

説明変数：暮し向きに対する政府の責任 (V118)、民主的な政権が政治制度として好ましい (V151)、わが国の民主的統治度 (V163)、人はだいたい信用できる (V23)、政治への関心度 (V95)、政治的行動：その他 (V99)、生活程度 (V252)、最終学歴 (V238)、宗教カトリック (V185)、宗教福音主義 (V185)

#### イギリス

目的変数：政府に対する信頼 (V138)

説明変数：暮し向きに対する政府の責任 (V118)、わが国の民主的統治度 (V163)、生活満足度 (V22)、人は他人との関係において公正に対処しようとする (V47)、政治への関心度 (V95)、政治的立場 (V114)、愛国心 (V209)、情報源としてメールやインターネットを利用 (V228)、年齢 (V237R3)、年収 (V253)、宗教イスラーム (V185)、宗教プロテスタント (V185)、宗教カトリック (V185)

## 3.3 分析結果

### 3.3.1 順位和検定

表 3-1 フランス・分析結果

	平均	N	平均ランク	順位和
イスラーム	2.25	49	197.68	9686.5
カトリック	2.87	407	232.21	94509.5

検定統計量 漸近有意確率：0.068

表 3-2 ドイツ・分析結果

	平均	N	平均ランク	順位和
福音主義	2.92	666	553.14	368388
カトリック	2.82	412	517.46	213193

検定統計量 漸近有意確率：0.047

表 3-3 イギリス（プロテスタント、カトリック）・分析結果

	平均	N	平均ランク	順位和
プロテスタント	2.84	262	191.54	50182.5
カトリック	2.59	105	165.2	17345.5

検定統計量 漸近有意確率：0.022

表 3-4 イギリス（イスラーム、プロテスタント）・分析結果

	平均	N	平均ランク	順位和
イスラーム	2.48	40	121.96	4878.5
プロテスタント	2.84	262	156.01	40874.5

検定統計量 漸近有意確率：0.015

表 3-5 イギリス（イスラーム、カトリック）・分析結果

	平均	N	平均ランク	順位和
イスラーム	2.48	40	68.74	2749.5
カトリック	2.59	150	74.62	7835.5

検定統計量 漸近有意確率：0.426

フランスにおいてはイスラーム・カトリック間には政府への信頼に対する統計的に有意な差が認められない。一方ドイツにおいては福音主義・カトリック間には政府への信頼に対する差がある。イギリスにおいてはプロテスタント・カトリック間、イスラーム・プロテスタント間には差があり、イスラーム・カトリック間には差がないという結果になった。

### 3.3.2 ロジスティック回帰分析

表 3-6 フランス・分析結果

	係数	標準誤差	有意確率
民主的な政権が政治制度として好ましい	-0.212	0.124	0.089
人はだいたい信用できる	-0.481	0.203	0.018
政党に加わっている	-0.290	0.240	0.227
家計状態への満足度	0.137	0.041	0.001
政治への関心度	-0.434	0.100	0.000
政治的行動：請願書・請願書への署名	0.186	0.136	0.171
政治的行動：不買行動	0.427	0.137	0.002
政治的立場	0.158	0.040	0.000

愛国心	-0.406	0.128	0.001
居住地規模	0.051	0.028	0.067
宗教（イスラーム）	-1.117	0.386	0.004
宗教（カトリック）	-0.404	0.171	0.018
定数	0.43	0.743	0.563

疑似  $R^2=0.138$

表 3-7 ドイツ・分析結果

	係数	標準誤差	有意確率
暮らし向きに対する政府の責任	0.070	0.036	0.055
民主的な政権が政治制度として好ましい	-0.243	0.153	0.112
わが国の民主的統治度	0.303	0.052	0.000
人はだいたい信用できる	-0.280	0.192	0.144
政治への関心度	-0.313	0.109	0.004
政治的行動：その他	0.465	0.150	0.002
生活程度	-0.239	0.129	0.065
最終学歴	-0.072	0.047	0.123
宗教（カトリック）	-0.614	0.254	0.016
宗教（福音主義）	-0.260	0.217	0.230
定数	-1.554	0.919	0.091

疑似  $R^2=0.127$

表 3-8 イギリス・分析結果

	係数	標準誤差	有意確率
暮らし向きに対する政府の責任	-0.100	0.041	0.015
わが国の民主的統治度	0.361	0.058	0.000
生活満足度	0.235	0.070	0.001
人は他人との関係において公正に対処しようとする	0.145	0.053	0.006
政治への関心度	-0.233	0.107	0.029
政治的立場	-0.170	0.058	0.003
愛国心	-0.369	0.158	0.019
情報源としてメールやインターネットを利用	-0.581	0.223	0.009
年齢	-0.254	0.145	0.080
年収	-0.081	0.043	0.056
宗教（イスラーム）	-0.421	0.675	0.533
宗教（ テストント）	-0.048	0.227	0.834
宗教（カトリック）	-0.401	0.332	0.228
定数	-0.469	1.282	0.715

疑似  $R^2=0.184$

フランスにおいてはイスラーム教を信仰している人はカトリックを信仰している人よりも政府への信頼は低いことがわかる。ドイツにおいてはカトリックを信仰する人は政府への信頼は低いが福音主義という変数は政府への信頼に影響を及ぼしていない。イギリスにおいては宗教の変数は政府への信頼に影響を及ぼさないという結果になった。

## 第四節 結論

### 4.1 考察

本論文では、「政教分離が徹底している国は、政教分離が徹底していない国に比べて、イスラーム教徒の政府に対する信頼が低い」という仮説のもと、フランス、ドイツ、イギリスといったヨーロッパの中の三カ国において、宗教の違いと政府への信頼の関係性について計量分析を行った。

結果として、フランスにおいては、カトリックを信仰している人も、イスラーム教を信仰している人も、政府への信頼は低かった。その上で、イスラーム教を信仰している人のほうが、政府への信頼は低いという結果を得ることができた。フランスは政教分離が徹底されている国であるので、政教分離が徹底している国はイスラーム教徒による政府への信頼が低いといった仮説を立証することができた。

次に、イギリスにおいては、ロジスティック回帰分析によって、宗教は政府への信頼には影響しないという結果を得ることができた。イギリスは政教分離が徹底していない国なので、宗教の違いによって政府への信頼が変わらないというのは妥当な結果である。フランス、イギリスの二カ国では、「政教分離が徹底化している国は、政教分離が徹底化していない国に比べて、イスラーム教徒による政府への信頼が低い」という仮説を立証することができた。やはり、日常の慣習や政治に深くかかわっていて信仰する者にとって、宗教以上の存在になっているイスラームは、政教分離によって信仰を妨げられていると考えられるであろう。そしてそれと同時に、イスラーム教徒にとって、世俗化が生活アイデンティティの脅威になっているということもこの分析から考えられることができるであろう。

次に、ドイツにおいては、カトリックを信仰する人は政府への信頼は低いが、福音主義という変数は政府への信頼に影響を及ぼさないという結果が得られた。これは、福音主義であるプロテスタント派は、カトリックに比べ、秘蹟や礼拝における儀礼を重視していないという宗教的特徴に基づいていると考えられる。

政教分離は、宗教と政府への信頼の関係性に大きな影響を与えているということが出来るであろう。

## 4.2 今後の課題

今回の分析では、イスラーム教をひとくくりに日常の慣習や政治に深くかかわっている宗教以上の存在であると位置付けて分析を行った。しかし、イスラーム教徒の中でも、宗教を公的空間にもちこむ度合いが違ってくることが考えられる。具体的に述べると、アジア系移民の意識調査によると、移民の第二世代はイスラームの慣習に固執するのではなく、自分の所属文化とホスト文化を相対した上で、両者とも再解釈し、受け入れてアイデンティティを得ているということが明らかになってきている(梶田 1993:)

このように、イスラーム教徒とひとくくりにいっても、信仰心はその人々によってさまざまであるため、そこに留意して、今後分析して検証していく価値があるのではないだろうか。

## 謝辞

本論文の作成にあたり、データの利用許可をくださいました World Values Survey 様、合同ゼミ合宿で貴重な意見をくださいました宇都宮大学の皆様に心からお礼申し上げます。

最後に、共に励んだ濱中研究室のみなさんと、終始適切な助言を賜り、丁寧かつ熱心に指導してくださいました濱中新吾先生に心から感謝申し上げます。

## 参考文献

- 畑山敏夫 (1997) 『フランス極右の新展開-ナショナル・ポピュリズムと新右翼-』 国際書院。
- 田辺俊介 (2010) 『ナショナル・アイデンティティの国際比較』 慶應義塾大学出版会。
- 田辺俊介 (2011) 『外国人へのまなざしと政治意識』 勁草書房。
- 小熊英二 (1998) 『日本人の境界線』 新曜社。
- 猪口孝 (2010) 『現代市民の国家観』 東京大学出版会。
- 猪口孝 (2008) 『アジアとヨーロッパの政治文化』 岩波書店。
- 山岸俊夫 (1998) 『信頼の構造』 東京大学出版会。
- 内藤正典 (1996) 『アッラーのヨーロッパ-移民とイスラーム復興-』 東京大学出版会。
- 内藤正典 (2004) 『ヨーロッパとイスラーム-共存は可能か-』 岩波書店。
- 矢田貞行 (1996) 「宗教多元主義と宗教教育の動向-イギリスを中心として-」 『鈴鹿短期大学紀要』 1-17。
- 三浦信孝 (2001) 『普遍性か差異か-共和主義の臨界、フランス-』 藤原書店。
- 梶田孝道 (1993) 『ヨーロッパとイスラーム-共存と相克のゆくえ-』 有信堂高文社。
- 池田謙一 (2010) 「行政に対する制度信頼の構造」 『年報政治学』 11-30。
- 大山耕輔 (2010) 「行政信頼の政府側と市民側の要因」 『年報政治学』 31-48。
- ブルーノ・エチエンヌ (1998) 「フランスにおけるイスラーム」 高柳先男 『ヨーロッパ新秩序と民族問題』 203-218。
- 宇田川史子 (1998) 「イギリスのエスニック・マイノリティ」 高柳先男 『ヨーロッパ新秩序と民族問題』 219-218。
- 内村国臣 (1993) 「ドイツ極右勢力の現状とその躍進の背景」 『中央学院大学教養論叢』5(2) 3-23。
- 工藤庸子 (2007) 「宗教 vs. 国家 フランス<政教分離>と市民の誕生」 講談社。
- 小泉陽一 (1998) 「政教分離と宗教的自由-フランスのライシテ-」 法律文化社。
- 力久昌幸 「ヨーロッパにおける極右政党-イギリス国民党の台頭と現代化プロジェクトに関する一考察-」 『ワールドワイドビジネスレビュー第10巻欧州研究特集号』 62-76。
- 福永洋介、新保進介、持田明子 (2004) 「現代フランス社会に見る移民問題」 『九州産業大学国際文化学部紀要 27』 57-80。
- 井上修一 (2010) 「フランスにおける政教分離の法の展開」 『教育学部論文集 21』 1-18。



## 付録

V22. All things considered, how satisfied are you with your life as a whole these days? Using this card on which 1 means you are “completely dissatisfied” and 10 means you are “completely satisfied” where would you put your satisfaction with your life as a whole? (*Code one number*):

Completely dissatisfied	Completely satisfied
1    2    3    4    5    6    7    8	9    10

V23. Generally speaking, would you say that most people can be trusted or that you need to be very careful in dealing with people? (*Code one answer*):

- 1 Most people can be trusted.
- 2 Need to be very careful.

Now I am going to read off a list of voluntary organizations. For each one, could you tell me whether you are an active member, an inactive member or not a member of that type of organization? (*Read out and code one answer for each organization*):

	Active member	Inactive member	Don't belong	NA
V28. Political party	2	1	0	9

V47. Do you think most people would try to take advantage of you if they got a chance, or would they try to be fair? Please show your response on this card, where 1 means that “people would try to take advantage of you,” and 10 means that “people would try to be fair” (*code one number*):

People would try to take advantage of you	People would try to be fair
1    2    3    4    5    6    7	8    9    10

V68. How satisfied are you with the financial situation of your household? Please use this card again to help with your answer (*code one number*):

Completely dissatisfied	Completely satisfied
1    2    3    4    5    6    7    8	9    10

V95. How interested would you say you are in politics? Are you (*read out and code one answer*):

- 1 Very interested

- 2 Somewhat interested
- 3 Not very interested
- 4 Not at all interested

Now I'd like you to look at this card. I'm going to read out some forms of political action that people can take, and I'd like you to tell me, for each one, whether you have done any of these things, whether you might do it or would never under any circumstances do it (*read out and code one answer for each action*):

	Have done	Might do	Would never do	DK
V96. Signing a petition	1	2	3	9
V97. Joining in boycotts	1	2	3	9
V99. Other	1	2	3	9

V114. In political matters, people talk of "the left" and "the right." How would you place your views on this scale, generally speaking? (*Code one number*):

Left									Right
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

Now I'd like you to tell me your views on various issues. How would you place your views on this scale? 1 means you agree completely with the statement on the left; 10 means you agree completely with the statement on the right; and if your views fall somewhere in between, you can choose any number in between. (*Code one number for each issue*):

V118. The government should										People should take more
take more responsibility to ensure										responsibility to
that everyone is provided for										provide for themselves
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	

I am going to name a number of organizations. For each one, could you tell me how much confidence you have in them: is it a great deal of confidence, quite a lot of confidence, not very much confidence or none at all? (*Read out and code one answer for each*):

	A great deal	Quite a lot	Not very much	None at all	DK
V138. The government	1	2	3	4	9

I'm going to describe various types of political systems and ask what you think about each as a way of governing this country. For each one, would you say it is a very good, fairly good, fairly bad or very bad way of governing this country? (*Read out and code one answer for each*):

	Very good	Fairly good	Fairly bad	Very bad	DK
V151. Having a democratic political system	1	2	3	4	9

V163. And how democratically is this country being governed today? Again using a scale from 1 to 10, where 1 means that it is “not at all democratic” and 10 means that it is “completely democratic,” what position would you choose? (*Code one number*):

Not at all democratic									Completely democratic
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

V209. How proud are you to be [ ]\*? (*Read out and code one answer*):

- 1 Very proud
- 2 Quite proud
- 3 Not very proud
- 4 Not at all proud
- 5 I am not [ ]\* (*do not read out! Code only if volunteered!*)
- 9 DK

People use different sources to learn what is going on in their country and the world. For each of the following sources, please indicate whether you used it last week or did not use it last week to obtain information (*read out and code one answer for each*):

	Used it last week	Did not use it last week	NA
V228. Internet, Email	1	2	9

V237. This means you are \_\_\_\_ years old (*write in age in two digits*).

V252. People sometimes describe themselves as belonging to the working class, the middle class, or the upper or lower class. Would you describe yourself as belonging to the (*read out and code one answer*):

- 1 Upper class
- 2 Upper middle class
- 3 Lower middle class
- 4 Working class
- 5 Lower class
- 9 DK

